

「教員養成におけるICT技術を使った食をテーマとした総合的な学習の指導設計（社会科）」

中島 洋*、関谷 融**

Teaching design for comprehensive learning on the theme of food using ICT technology
～ (Social Studies)

Hiroshi NAKASHIMA*、Toru SEKIYA**

長崎県立大学特任教授* 長崎県立大学国際社会学部**

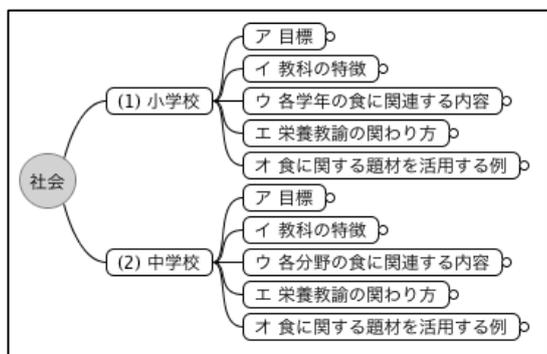
要旨 平成 29 年に改訂・告示された小・中学校の『学習指導要領』には、児童・生徒の「理解」「技能」の「構図」が示されている。
本稿では、『学習指導要領』における「社会科」について、教職課程履修者自身の「総合的な学習」の指導イメージ形成と、教員として「総合的な学習を指導する際に「考えるための技法」のうち「関連付ける」を可視化する方法として概念地図化を用いた学習指導を実現できるよう「総合的な学習」の具体的展開を、『食に関する指導の手引き改訂版』に即してイメージ化するための仕掛けづくりを試みた。

キーワード : 社会科、総合的な学習の指導方法、概念地図

1. はじめに

筆者らはこれまで児童・生徒の「理解」の「構図」が示されている「学習指導要領」及びその『解説編』を、教職課程を履修する学生自身の学修、および長崎県の教員研修時の「ナビゲーター」として捉え直す方法について論じてきた。^{注1}具体的には、『学習指導要領』を概念地図に変換するコンピュータ・ソフトウェア（“Freemind”^{注2}）を使用して概念地図に変換して図的に可視化できるようにす

るものである。受講生には、この変換を通じて自分の希望する免許状教科科目の内容構造を直感的にイメージできるようになることを期待した。本稿では、特に栄養教諭免許状及び中学社会科免許状履修学生が、自身の学習ナビゲーションとして活用することを念頭に、平成 29 年 3 月に改訂された『学習指導要領』における「特別活動」について、「総合的な学習の時間」の具体的展開を、『食に関する指導の手引き改訂版』に即してイメージ化するための仕掛けづくりを試みている。

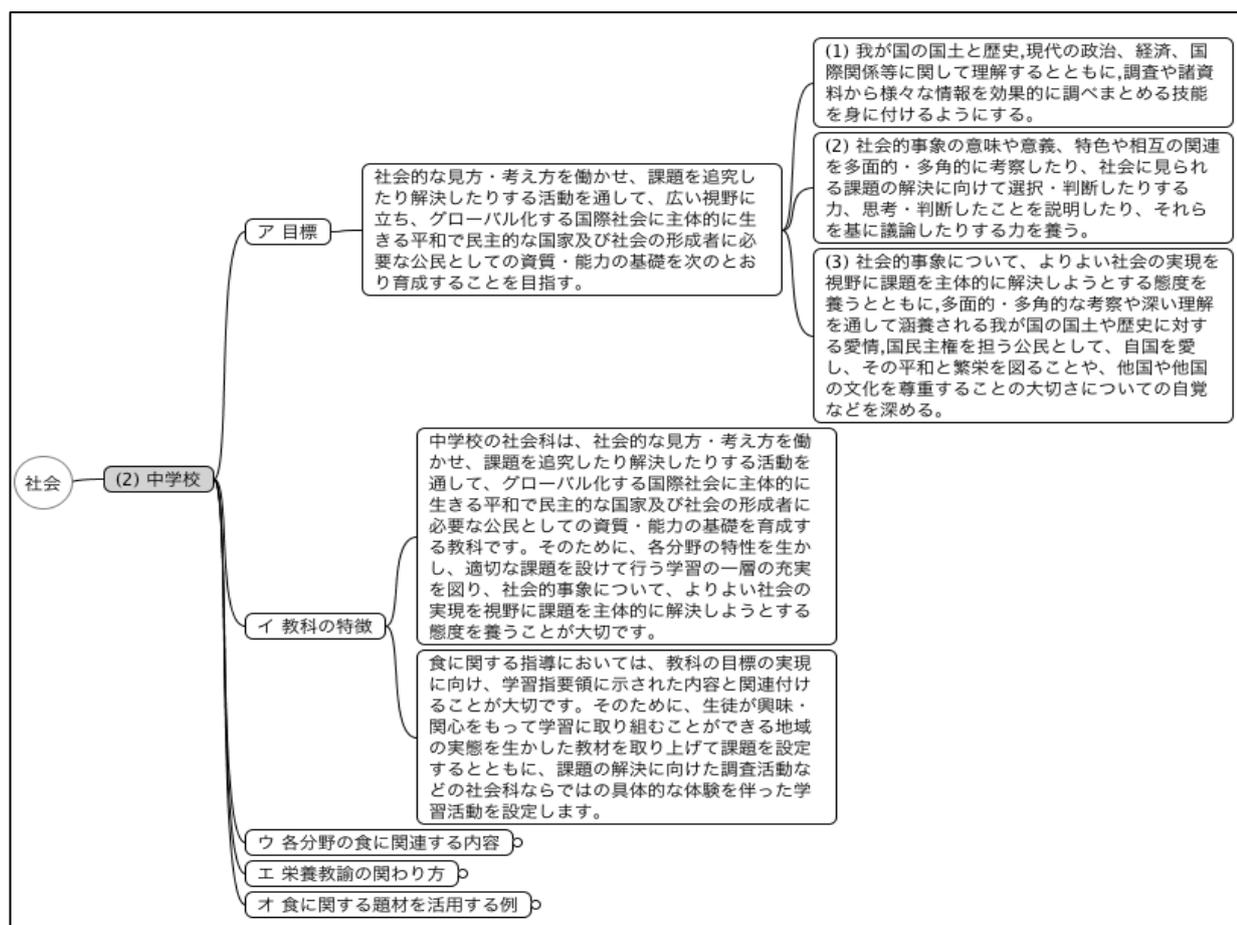


01 社会科の全体構造

2. 『食に関する指導の手引き改訂版』における「社会科」の構成

「社会科」は、小学校及び中学校ともに「(1) 目標」「(2) 教科等の特徴」「(3) 食に関する内容」「(4) 栄養教諭の関わり方」の 4 項目で構成されている。

以下では、中学校段階についてそれらの下部構造を辿っていくことにする。※小学校は文末「補遺」へ。



02 中学社会_ア目標_イ教科の特徴

ア 目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

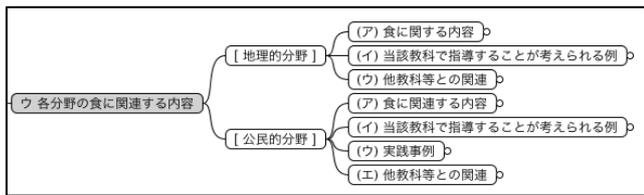
(『学習指導要領』より)

イ 教科の特徴

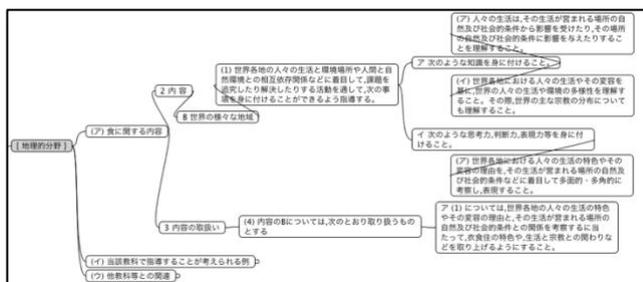
中学校の社会科は、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する教科です。そのために、各分野の特性を生かし、適切な課題を設けて行う学習の一層の充実を図り、社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うことが大切です。

食に関する指導においては、教科の目標の実現に向け、学習指要領に示された内容と関連付けることが大切です。そのために、生徒が興味・関心をもって学習に取り組むことができる地域の実態を生かした教材を取り上げて課題を設定するとともに、課題の解決に向けた調査活動などの社会科ならではの具体的な体験を伴った学習活動を設定します。

■研究論文



03 中学社会_ウ各分野の食に関連する内容



04 地理的分野_(ア)食に関する内容

- (ア) 食に関する内容
- 2 内容
- B 世界の様々な地域

(1) 世界各地の人々の生活と環境場所や人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解すること。

(イ) 世界各地における人々の生活やその変容を基に、世界の人々の生活や環境の多様性を理解すること。その際、世界の主な宗教の分布についても理解すること。

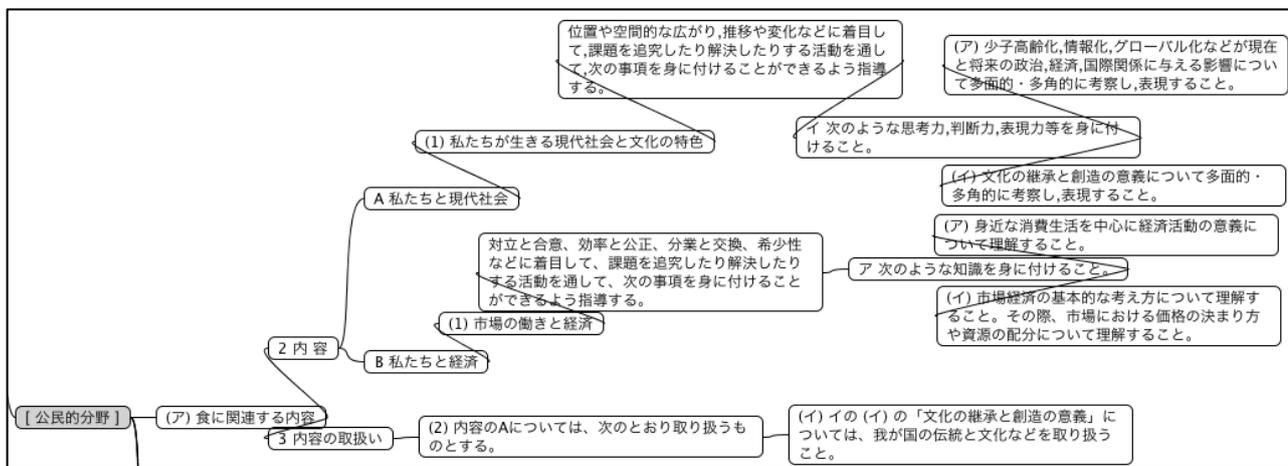
イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現すること。

3 内容の取扱い

(4) 内容のBについては、次のとおり取り扱うものとする

ア (1) については、世界各地の人々の生活の特色やその変容の理由と、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件との関係を考察するに当たって、衣食住の特色や、生活と宗教との関わりなどを取り上げるようにすること。



05 公民的分野_(ア)食に関する内容

- (ア) 食に関連する内容
- 2 内容
- A 私たちと現代社会

(1) 私たちが生きる現代社会と文化の特色
位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 少子高齢化、情報化、グローバル化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現すること。

(イ) 文化の継承と創造の意義について多面的・多角的に考察し、表現すること。

B 私たちと経済

(1) 市場の働きと経済

対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

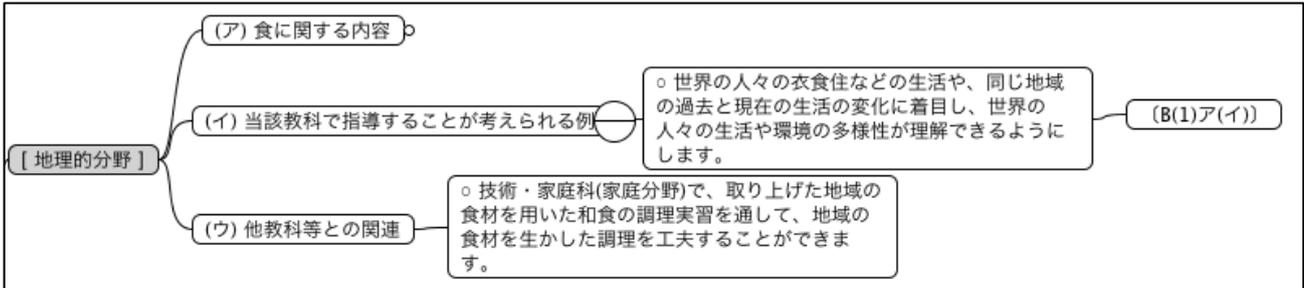
(ア) 身近な消費生活を中心に経済活動の意義について理解すること。

(イ) 市場経済の基本的な考え方について理解すること。その際、市場における価格の決め方や資源の配分について理解すること。

3 内容の取扱い

(2) 内容のAについては、次のとおり取り扱うものとする。

(イ) イの(イ)の「文化の継承と創造の意義」については、我が国の伝統と文化などを取り扱うこと。



06 地理的分野_(イ)指導例_(ウ)他教科等との関連

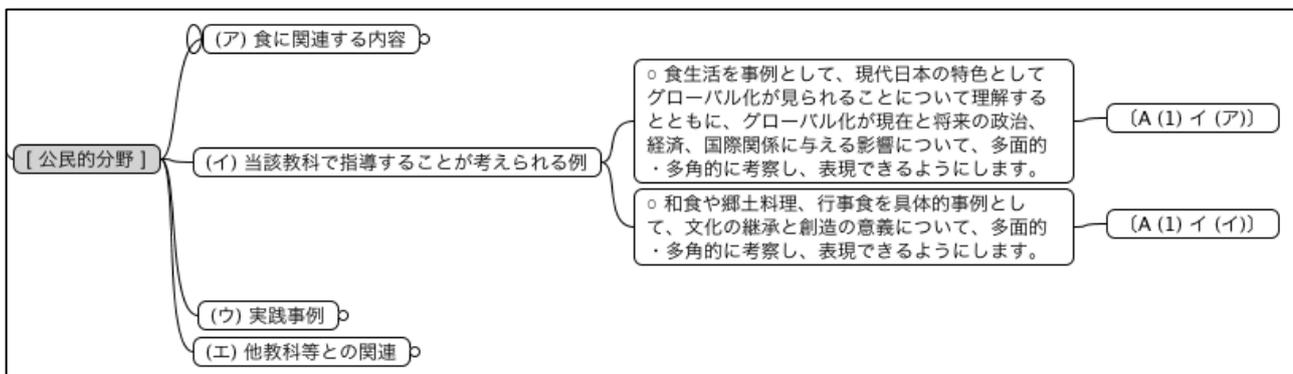
(イ) 当該教科で指導することが考えられる例

○ 世界の人々の衣食住などの生活や、同じ地域の過去と現在の生活の変化に着目し、世界の人々の生活や環境の多様性が理解できるようにします。

[B(1)ア(イ)]

(ウ) 他教科等との関連

○ 技術・家庭科(家庭分野)で、取り上げた地域の食材を用いた和食の調理実習を通して、地域の食材を生かした調理を工夫することができます。



07 公民的分野_(イ)指導例

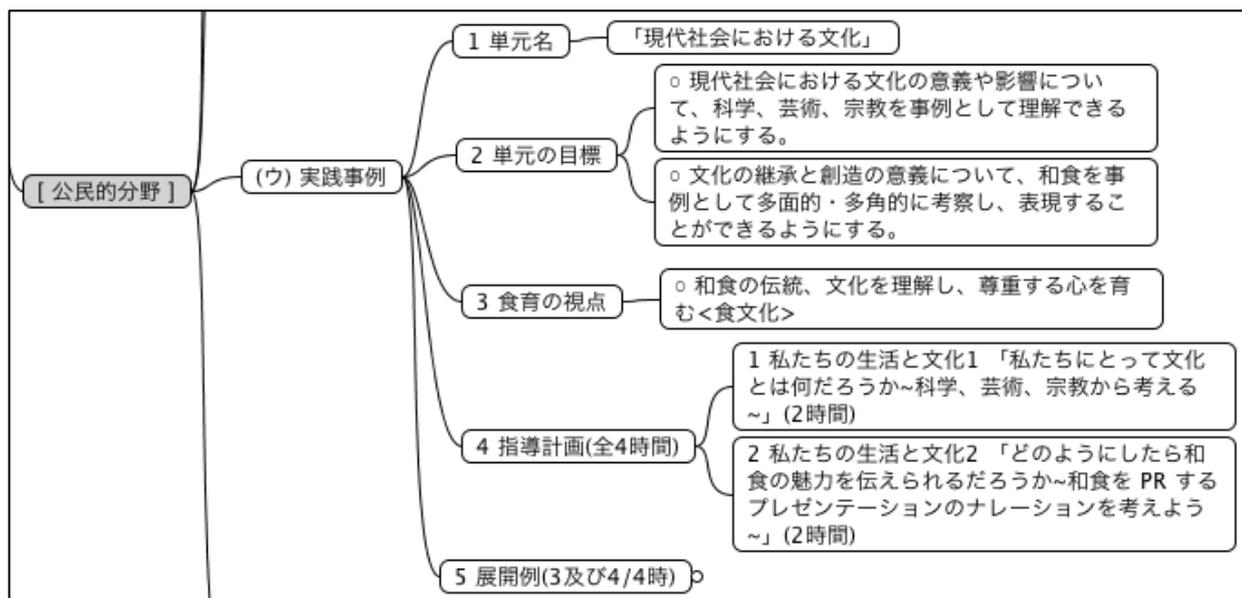
(イ) 当該教科で指導することが考えられる例

○ 食生活を事例として、現代日本の特色としてグローバル化が見られることについて理解するとともに、グローバル化が現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響につ

いて、多面的・多角的に考察し、表現できるようにします。

[A(1)イ(ア)]

○ 和食や郷土料理、行事食を具体的事例として、文化の継承と創造の意義について、多面的・多角的に考察し、表現できるようにします。 [A(1)イ(イ)]



08 公民的分野_(ウ)実践事例/1~4

(ウ) 実践事例

1 単元名

「現代社会における文化」

2 単元の目標

- 現代社会における文化の意義や影響について、科学、芸術、宗教を事例として理解できるようにする。
- 文化の継承と創造の意義について、和食を事例として多面的・多角的に考察し、表現することができるようにする。

3 食育の視点

- 和食の伝統、文化を理解し、尊重する心を育む<食文化>

4 指導計画(全4時間)

- 1 私たちの生活と文化1 「私たちにとって文化とは何だろうか～科学、芸術、宗教から考える～」(2時間)
- 2 私たちの生活と文化2 「どのようにしたら和食の魅力を伝えられるだろうか～和食を PRするプレゼンテーションのナレーションを考えよう～」(2時間)

5 展開例(3及び4/4時)

○ 本時の目標

食文化の継承と創造の意義について、多面的・多角的に考察し、表現できる。(思考・判断・表現)

主な学習活動

[学習課題の設定]

- 食に関する世論調査の結果などから、食文化、特に和食について追究の意欲を高める。

- ・ほとんどの人が1日に2度以上白米を食べる。
- ・好きな食事の多くが和食である。

学習課題

どうすれば和食の魅力を伝えられるだろうか ～和食を PR するプレゼンテーションのナレーションを考えよう～

準備するスライド

- 1 ユネスコ無形文化遺産に登録された和食
- 2 先人の知恵が生み出した和食
- 3 今も進化を続ける和食の世界
- 4 世界に広がる和食と「和食のピンチ」

[見通しを立てる]

- 学習課題を解決するため、見通しを立てる。
- 1 どんなナレーションにすると和食の魅力が伝わるか
- 2 これまで学んだことで役立ちそうなことはないか
- 3 どのようにして情報を集めるか

[課題の解決]

- グループでナレーションの作成に取り組む。
- 1 農林水産省が作成したリーフレット「和食」から和食の特徴を読み取り、まとめる。
- 2 技術・家庭科(家庭分野)での学習を生かして、栄養面から見た和食のよさについてまとめる。
- 3 スライドにある米の品種改良や炊飯器の改善以外にも和食に関わる文化の創造の事例を紹介する。
- 4 スライドのグラフから読み取ったこと以外にも、和食の海外への広がりや和食の抱える課題について発表する。

[発表・成果の共有・発展]

- プレゼンテーション用ソフトを映写しながら、各グループが発表する
- ・和食の栄養バランス
- ・漬物や伝統食に見られる保存などの知恵
- ・行事食に込められた願いや思い
- ・和食食材の生産が生み出す日本の景観
- ・和食に見られる自然のとらえ方、自然との関わり方

- ・現在の和食が海外の調理法等を工夫し、独自に発達したものであること
- ・食に関する普遍性と多様性
- ・世界の注目
- ・現代の日本人の食をめぐる状況

○5枚目のスライドに「これから私は・・・(文化の継承と創造について自らの考えを書くもの)」をつくる場合、どのようなナレーションを入れるか、相談しながら各自まとめる。

[振り返り]

○以下の点から振り返りを行う。

- ・先人が育んできた伝統文化
- ・和食の魅力を伝えるナレーションを考える上で役立ったこと

指導上の留意点

[学習課題の設定]

○農林水産省等が実施している意識調査の結果等を利用する。

○プレゼンテーションのスライドを見せ、学習課題の具体的なイメージをもたせる。

○郷土食や行事食も PRの対象であることを告げる。

[見通しを立てる]

○地理的分野、歴史的分野や技術・家庭科(家庭分野)で学習したことを思い出させる。

○給食をはじめ、自身の食生活も考える足がかりとするよう助言する。

○おうちの方や栄養教諭への聞き取りで情報を得ることも有効であることを助言する。

[課題の解決]

*栄養教諭は、郷土食や伝統食に込められた願い、工夫、知恵などについて説明する。(これまでに作成した給食だよりなどを活用する。)

○ユネスコ無形文化遺産申請の際にアピールした四つの特徴が書かれていることに着目させる。

○2では、食器、自然との関わり方、マナーなどにも着目させ、日本の伝統的な考え方に着目させる。

○4の「和食のピンチ」は、魅力を伝えることと関連させなくてよいことを伝える。

○地理的分野の学習の成果を生かして、世界の食文化の多様性と普遍性にも気付かせるよう助言する。

[発表・成果の共有・発展]

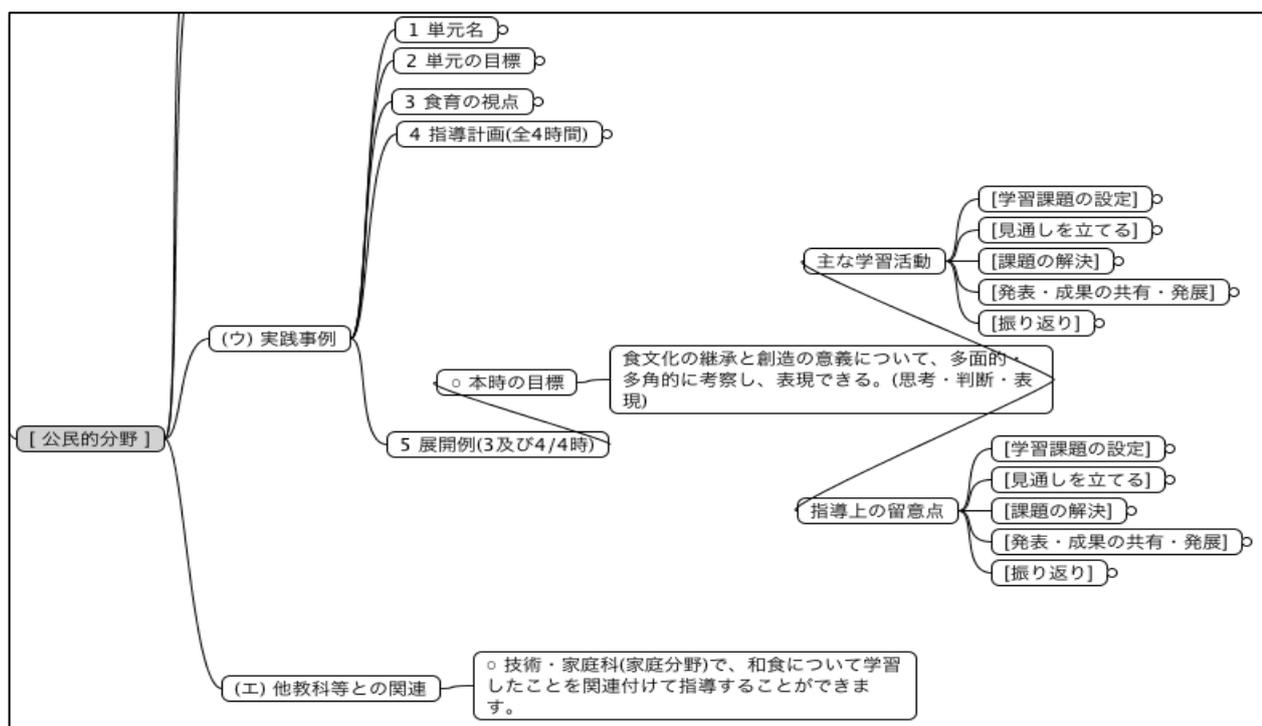
○次の活動(5枚目のスライドのナレーションを考える)に生かせるように、各発表に左記のことが含まれていることを確認し、適宜指導する。

※発表するグループ数など発表に要する時間は、生徒の実態や授業の目標に応じて変更する。

○必要に応じて、「食育に関する意識調査報告書」のうち「6食文化の継承及び伝承について」のデータ等を紹介する。

[振り返り]

○振り返りに入る前に、伝統的な文化は和食だけでなく、衣服など他にもあることに気付かせる。



09 公民的分野_(ウ)実践事例 5_(エ)他教科等との関連

「5 展開例(3 及び 4/4 時)」「○ 本時の目標」「食文化の継承と創造の意義について、多面的・多角的に考察し、表現できる。(思考・判断・表現)」

主な学習活動

[学習課題の設定]

○食に関する世論調査の結果などから、食文化、特に和食について追究の意欲を高める。

- ・ほとんどの人が1日に2度以上白米を食べる。
- ・好きな食事の多くが和食である。

学習課題

どうすれば和食の魅力を伝えられるだろうか ～和食を PR するプレゼンテーションのナレーションを考えよう～

準備するスライド

- 1 ユネスコ無形文化遺産に登録された和食
- 2 先人の知恵が生み出した和食
- 3 今も進化を続ける和食の世界
- 4 世界に広がる和食と「和食のピンチ」

[見通しを立てる]

○学習課題を解決するため、見通しを立てる。

- 1 どんなナレーションにすると和食の魅力が伝わるか
- 2 これまで学んだことで役立ちそうなことはないか
- 3 どのようにして情報を集めるか

[課題の解決]

○グループでナレーションの作成に取り組む。

- 1 農林水産省が作成したリーフレット「和食」から和食の特徴を読み取り、まとめる。
- 2 技術・家庭科(家庭分野)での学習を生かして、栄養面から見た和食のよさについてまとめる。
- 3 スライドにある米の品種改良や炊飯器の改善以外にも和食に関わる文化の創造の事例を紹介する。
- 4 スライドのグラフから読み取ったこと以外にも、和食の海外への広がりや和食の抱える課題について発表する。

[発表・成果の共有・発展]

○プレゼンテーション用ソフトを映写しながら、各グループが発表する

- ・和食の栄養バランス
- ・漬物や伝統食に見られる保存などの知恵
- ・行事食に込められた願いや思い
- ・和食食材の生産が生み出す日本の景観
- ・和食に見られる自然のとらえ方、自然との関わり方
- ・現在の和食が海外の調理法等を工夫し、独自に発達したものであること
- ・食に関する普遍性と多様性
- ・世界の注目
- ・現代の日本人の食をめぐる状況

○5枚目のスライドに「これから私は・・・(文化の継承と創造について自らの考えを書くもの)」をつくる場合、どの

ようなナレーションを入れるか、相談しながら各自まとめる。

[振り返り]

○以下の点から振り返りを行う。

- ・先人が育んできた伝統文化
- ・和食の魅力を伝えるナレーションを考える上で役立ったこと

指導上の留意点

[学習課題の設定]

○農林水産省等が実施している意識調査の結果等を利用する。

○プレゼンテーションのスライドを見せ、学習課題の具体的なイメージをもたせる。

○郷土食や行事食も PR の対象であることを告げる。

[見通しを立てる]

○地理的分野、歴史的分野や技術・家庭科(家庭分野)で学習したことを思い出させる。

○給食をはじめ、自身の食生活も考える足がかりとするよう助言する。

○おうちの方や栄養教諭への聞き取りで情報を得ることも有効であることを助言する。

[課題の解決]

*栄養教諭は、郷土食や伝統食に込められた願い、工夫、知恵などについて説明する。(これまでに作成した給食だよりなどを活用する。)

○ユネスコ無形文化遺産申請の際にアピールした四つの特徴が書かれていることに着目させる。

○2では、食器、自然との関わり方、マナーなどにも着目させ、日本の伝統的な考え方に着目させる。

○4の「和食のピンチ」は、魅力を伝えることと関連させなくてよいことを伝える。

○地理的分野の学習の成果を生かして、世界の食文化の多様性と普遍性にも気付かせるよう助言する。

[発表・成果の共有・発展]

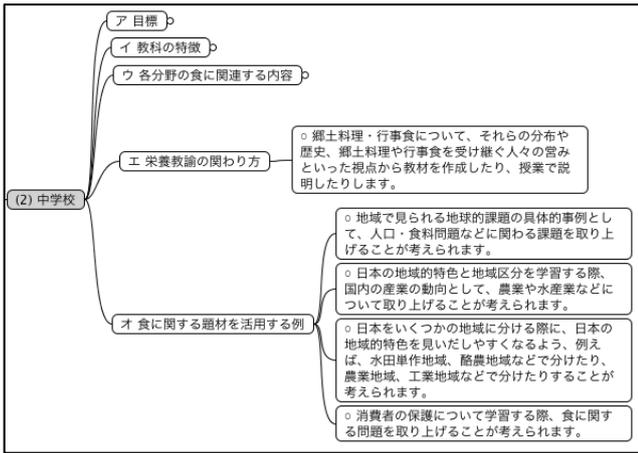
○次の活動(5枚目のスライドのナレーションを考える)に生かせるように、各発表に左記のことが含まれていることを確認し、適宜指導する。

※発表するグループ数など発表に要する時間は、生徒の実態や授業の目標に応じて変更する。

○必要に応じて、「食育に関する意識調査報告書」のうち「6食文化の継承及び伝承について」のデータ等を紹介する。

[振り返り]

○振り返りに入る前に、伝統的な文化は和食だけでなく、衣服など他にもあることに気付かせる。



10 エ栄養教諭の関わり方_オ活用例

エ 栄養教諭の関わり方

○ 郷土料理・行事食について、それらの分布や歴史、郷土料理や行事食を受け継ぐ人々の営みといった視点から教材を作成したり、授業で説明したりします。

オ 食に関する題材を活用する例

○ 地域で見られる地球的課題の具体的事例として、人口・食料問題などに関わる課題を取り上げることが考えられます。

○ 日本の地域的特色と地域区分を学習する際、国内の産業の動向として、農業や水産業などについて取り上げることが考えられます。

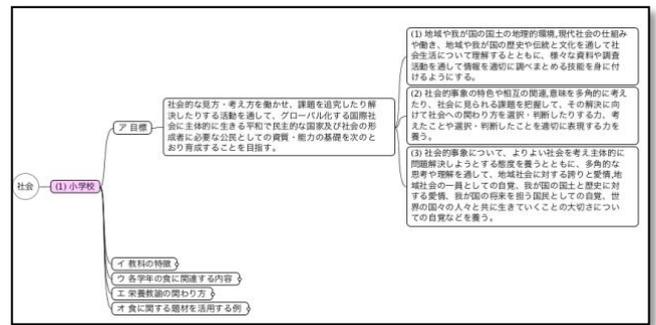
○ 日本をいくつかの地域に分ける際に、日本の地域的特色を見だしやすくなるよう、例えば、水田単作地域、酪農地域などで分けたり、農業地域、工業地域などで分けたりすることが考えられます。

○ 消費者の保護について学習する際、食に関する問題を取り上げることが考えられます。

3. おわりに

「はじめに」でも述べたように、本稿は直接には栄養教諭免許状履修者にとっての「総合的な学習の時間」の指導法に関わるものであるが、他の免許状（本学では、中学社会科、高校公民科及び養護教諭）履修者が「総合的な学習の時間」「総合的な探求の時間」の指導法を構想する際の具体的な範例として、とりわけ、いずれの教科においても、必要なことではあるがおろそかになりがちな『学習指導要領』の構造を視野に入れつつの各学校・教員が日々の教育活動を構想する際にも有効であるように思われる。

補遺 小学校



小学校_ア目標

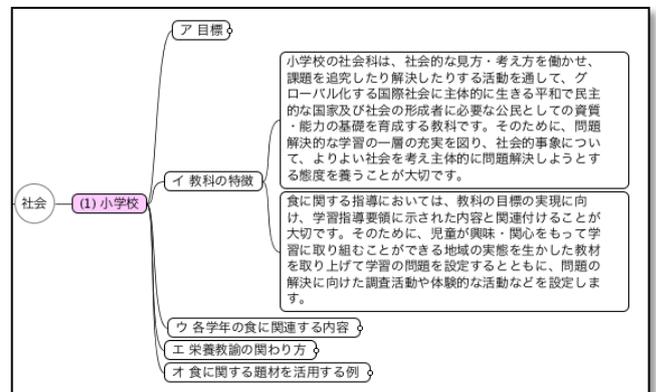
ア 目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

(1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

(2) 社会的現象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。

(3) 社会的現象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。



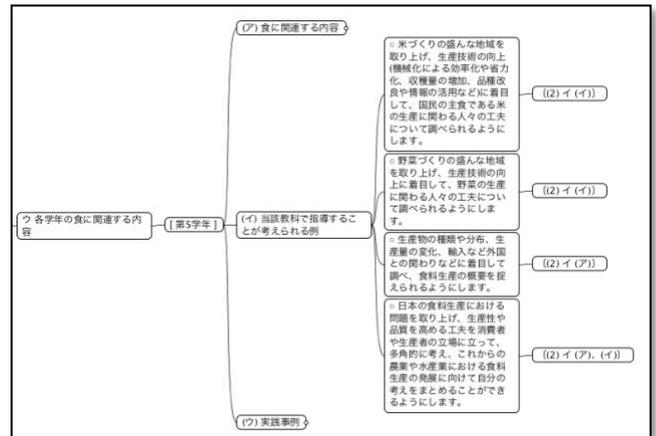
小学校_イ教科の特徴

イ 教科の特徴

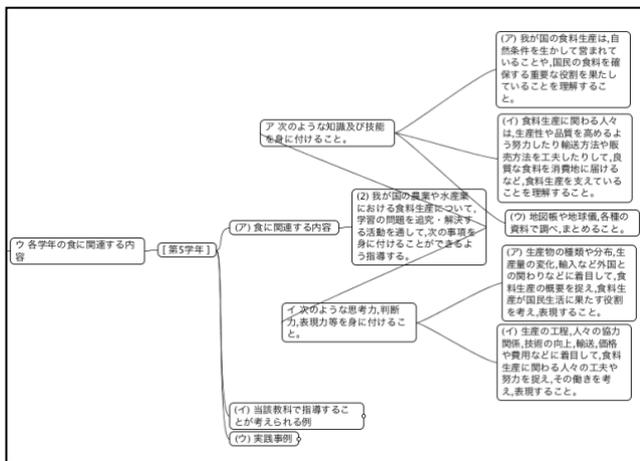
小学校の社会科は、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する教科です。そのために、問題解決的な学習の一層の充実を図り、社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うことが大切です。

食に関する指導においては、教科の目標の実現に向け、学習指導要領に示された内容と関連付けることが大切です。そのために、児童が興味・関心をもって学習に取り組むことができる地域の実態を生かした教材を取り上げて学習の問題を設定するとともに、問題の解決に向けた調査活動や体験的な活動などを設定します。

努力を捉え、その働きを考え、表現すること。



(イ)



ウ食に関する/5学年/(ア)食に関連する内容

ウ 各学年の食に関連する内容

(ア) 食に関連する内容

(2) 我が国の農業や水産業における食料生産について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解すること。

食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解すること。

(ウ) 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
(ア) 生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、食料生産の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。

(イ) 生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や

ウ食に関する/5学年/(イ)指導例

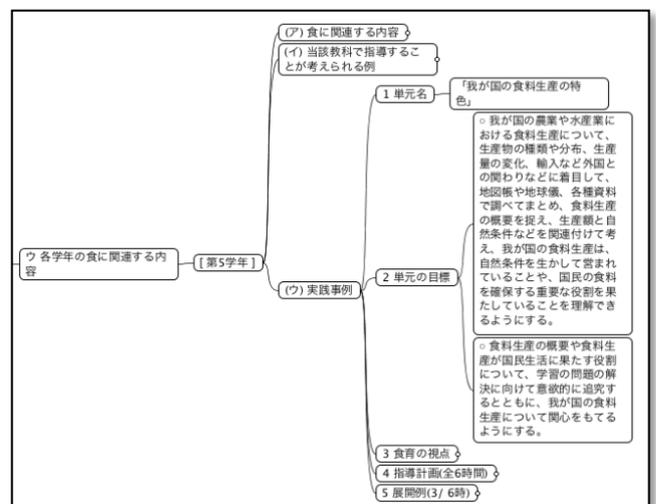
(イ) 当該教科で指導することが考えられる例

○ 米づくりの盛んな地域を取り上げ、生産技術の向上(機械化による効率化や省力化、収穫量の増加、品種改良や情報の活用など)に着目して、国民の主食である米の生産に関わる人々の工夫について調べられるようにします。
〔(2) イ (イ)〕

○ 野菜づくりの盛んな地域を取り上げ、生産技術の向上に着目して、野菜の生産に関わる人々の工夫について調べられるようにします。
〔(2) イ (イ)〕

○ 生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して調べ、食料生産の概要を捉えられるようにします。
〔(2) イ (ア)〕

○ 日本の食料生産における問題を取り上げ、生産性や品質を高める工夫を消費者や生産者の立場に立って、多角的に考え、これからの農業や水産業における食料生産の発展に向けて自分の考えをまとめることができるようにします。
〔(2) イ (ア)、(イ)〕



ウ食に関する/5学年/(ウ)実践事例 1~2

(ウ) 実践事例

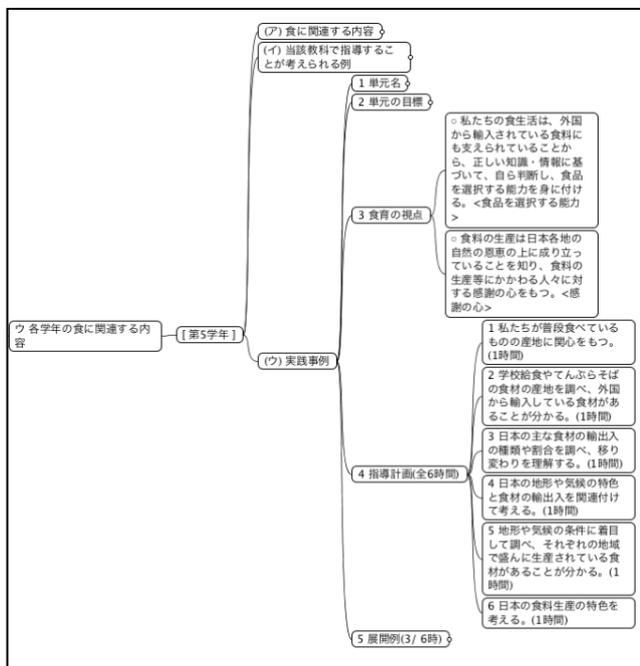
1 単元名

「我が国の食料生産の特色」

2 単元の目標

○ 我が国の農業や水産業における食料生産について、生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、地図帳や地球儀、各種資料で調べてまとめ、食料生産の概要を捉え、生産額と自然条件などを関連付けて考え、我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解できるようにする。

○ 食料生産の概要や食料生産が国民生活に果たす役割について、学習の問題の解決に向けて意欲的に追究するとともに、我が国の食料生産について関心をもてるようにする。



ウ食に関する/5 学年/(ウ)実践事例 3~4

3 食育の視点

○ 私たちの食生活は、外国から輸入されている食料にも支えられていることから、正しい知識・情報に基づいて、自ら判断し、食品を選択する能力を身に付ける。〈食品を選択する能力〉

○ 食料の生産は日本各地の自然の恩恵の上に成り立っていることを知り、食料の生産等にかかわる人々に対する感謝の心をもつ。〈感謝の心〉

4 指導計画(全6時間)

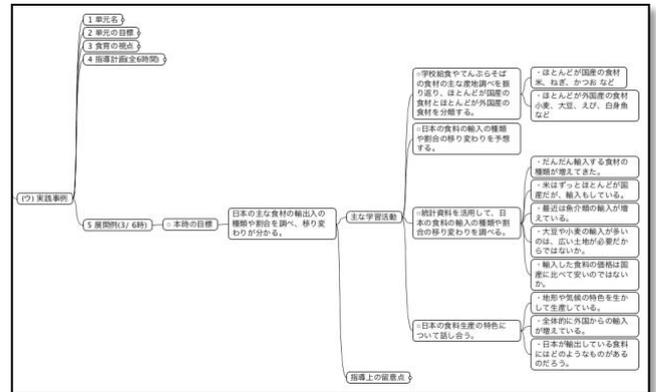
- 1 私たちが普段食べているものの産地に関心をもつ。(1時間)
- 2 学校給食やてんぷらそばの食材の産地を調べ、外国から輸入している食材があることが分かる。(1時間)

3 日本の主な食材の輸出入の種類や割合を調べ、移り変わりを理解する。(1時間)

4 日本の地形や気候の特色と食材の輸出入を関連付けて考える。(1時間)

5 地形や気候の条件に着目して調べ、それぞれの地域で盛んに生産されている食材があることが分かる。(1時間)

6 日本の食料生産の特色を考える。(1時間)



ウ食に関する/5 学年/(ウ)実践事例 5/主な学習活動

5 展開例(3/6時)

○ 本時の目標

日本の主な食材の輸出入の種類や割合を調べ、移り変わりが分かる。

主な学習活動

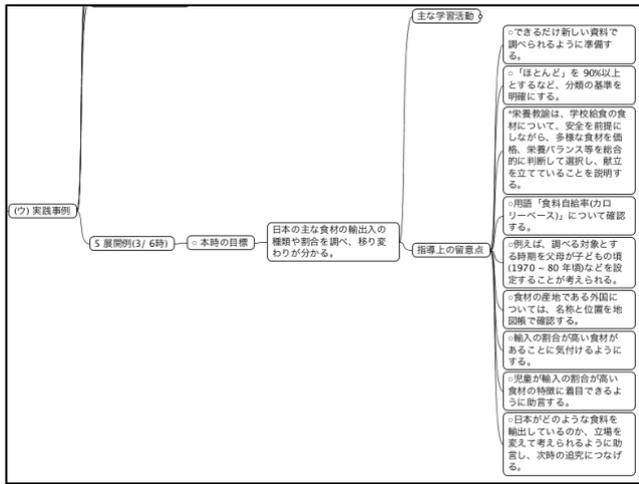
○ 学校給食やてんぷらそばの食材の主な産地調べを振り返り、ほとんどが国産の食材とほとんどが外国産の食材を分類する。

- ・ほとんどが国産の食材
米、ねぎ、かつお など
- ・ほとんどが外国産の食材
小麦、大豆、えび、白身魚 など

○ 日本の食料の輸入の種類や割合の移り変わりを予想する。

○ 統計資料を活用して、日本の食料の輸入の種類や割合の移り変わりを調べる。

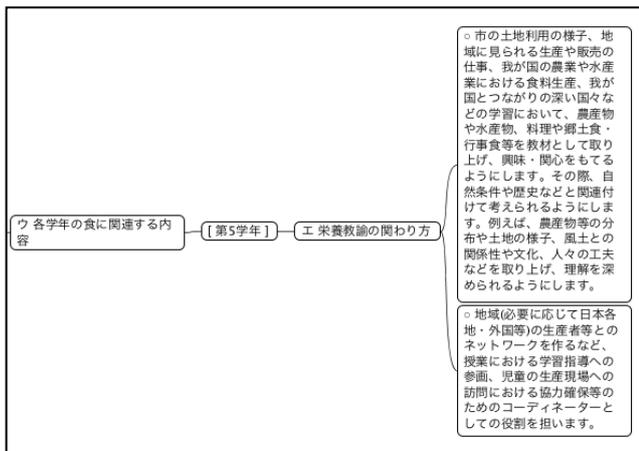
- ・だんだん輸入する食材の種類が増えてきた。
 - ・米はずっとほとんどが国産だが、輸入もしている。
 - ・最近は魚介類の輸入が増えている。
 - ・大豆や小麦の輸入が多いのは、広い土地が必要だからではないか。
 - ・輸入した食料の価格は国産に比べて安いのではないかと。
- 日本の食料生産の特色について話し合う。
- ・地形や気候の特色を生かして生産している。
 - ・全体的に外国からの輸入が増えている。
 - ・日本が輸出している食料にはどのようなものがあるのだろう。



ウ食に関する/5学年/(ウ)実践事例5/指導上の留意点

指導上の留意点

- できるだけ新しい資料で調べられるように準備する。
- 「ほとんど」を90%以上とするなど、分類の基準を明確にする。
- *栄養教諭は、学校給食の食材について、安全を前提にしなが、多様な食材を価格、栄養バランス等を総合的に判断して選択し、献立を立てていることを説明する。
- 用語「食料自給率(カロリーベース)」について確認する。
- 例えば、調べる対象とする時期を父母が子どもの頃(1970～80年頃)などを設定することが考えられる。
- 食材の産地である外国については、名称と位置を地図帳で確認する。
- 輸入の割合が高い食材があることに気付けるようにする。
- 児童が輸入の割合が高い食材の特徴に着目できるように助言する。
- 日本がどのような食料を輸出しているのか、立場を変えて考えられるように助言し、次時の追究につなげる。



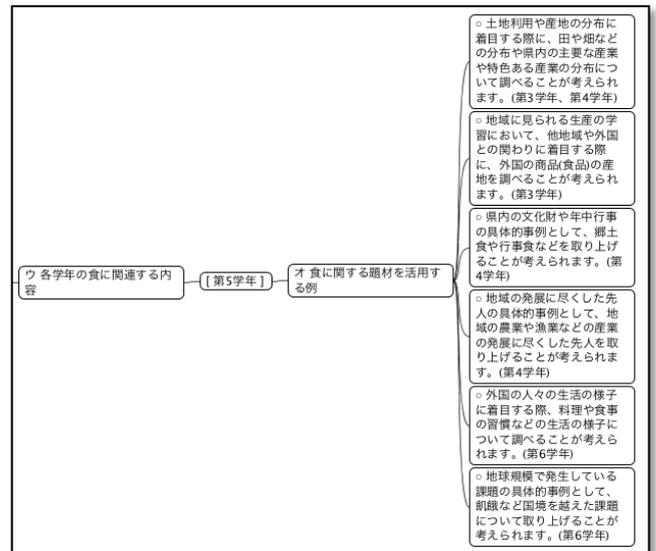
ウ食に関する/5学年/エ栄養教諭の関わり方

エ 栄養教諭の関わり方

- 市の土地利用の様子、地域に見られる生産や販売の仕事、

我が国の農業や水産業における食料生産、我が国とつながりの深い国々などの学習において、農産物や水産物、料理や郷土食・行事食等を教材として取り上げ、興味・関心をもてるようにします。その際、自然条件や歴史などと関連付けて考えられるようにします。例えば、農産物等の分布や土地の様子、風土との関係性や文化、人々の工夫などを取り上げ、理解を深められるようにします。

○ 地域(必要に応じて日本各地・外国等)の生産者等とのネットワークを作るなど、授業における学習指導への参画、児童の生産現場への訪問における協力確保等のためのコーディネーターとしての役割を担います。



ウ食に関する/5学年/エ活用例

オ 食に関する題材を活用する例

- 土地利用や産地の分布に着目する際に、田や畑などの分布や県内の主要な産業や特色ある産業の分布について調べることが考えられます。(第3学年、第4学年)
- 地域に見られる生産の学習において、他地域や外国との関わりに着目する際に、外国の商品(食品)の産地を調べることが考えられます。(第3学年)
- 県内の文化財や年中行事の具体的事例として、郷土食や行事食などを取り上げることが考えられます。(第4学年)
- 地域の発展に尽くした先人の具体的事例として、地域の農業や漁業などの産業の発展に尽くした先人を取り上げることが考えられます。(第4学年)
- 外国の人々の生活の様子に着目する際、料理や食事の習慣などの生活の様子について調べることが考えられます。(第6学年)
- 地球規模で発生している課題の具体的事例として、飢餓など国境を越えた課題について取り上げることが考えられます。(第6学年)

注 1

- ・中島、関谷「教員職務研修の実際：総合的な学習の時間の体制づくり」『長崎県立大学国際社会学部研究紀要』第 2 号、平成 29 (2017) 年
- ・中島、関谷「特別活動の指導にあたっての教師の役割について」『長崎県立大学国際社会学部研究紀要』第 2 号、平成 29 (2017) 年
- ・関谷「教職課程における学修理解を促す「構図」としての学習指導要領 - 「中学社会 (地理的分野) 平成 29 年度改訂版 - 」『長崎県立大学国際社会学部研究紀要』第 3 号、平成 30 (2018) 年
- ・関谷「教職課程学修理解を促す「構図」としての学習指導要領--総合的な探求の時間-目標、各学校において定める目標及び内容」『長崎県立大学国際社会学部研究紀要』第 4 号、令和 (2019) 年
- ・関谷「教職課程学修理解を促す「構図」としての学習指導要領--総合的な探求の時間-指導計画の作成と内容の取扱い」『長崎県立大学国際社会学部研究紀要』第 4 号、令和 (2019) 年

注 2

概念地図化は、「考えるための技法」のうち「「関連付ける」を可視化する方法として、例えば、ある事柄を中央に置き、関連のある言葉を次々に書き出し、線でつないでいくという方法 (いわゆるウエビング) 」であり、その機能を有したコンピュータ・ソフトウェア (“Freemind”) を使用したものである。

文献

- 1) 文部科学省：『学習指導要領』平成 29 (2017) 年
 - 2) 文部科学省：『学習指導要領解説 中学校社会科編』平成 29 (2017) 年
 - 3) 文部科学省：『食に関する指導の手引第二次改訂版』平成 31 (2019) 年
-